



大井第一小学校

同窓会 会報24号

発行責任者 大野 正恒

令和4年7月

写真で見る大井第一小学校の現状Ⅰ



池上通りに面した垣根は見通しができるように整備されました。右の写真は、昭和18年卒業の有志の方々が卒業50周年の記念に植樹したざくろの木です。本誌6ページに「写真で見る大井第一小学校の現状Ⅱ」を掲載してあります。

このたび、品川区教育委員会事務局指導課からまいりました、杉浦紀彦と申します。加藤高嗣副校長とともに大一を支える職責を担うことになりました。よろしくお願いいたします。

私は平成21年4月から25年3月まで、大井第一小学校で教員として勤務しておりました。異動先が大一と知った時は、ふるさとに帰れるような喜びの一方で、輝かしい伝統をもち、同窓生・地域の方の信頼や期待を集める大一に勤務することの重みを感じ、背筋が伸びる思いがしました。日々仕事を進めることに、その使命感や責任感をさらに強く感じているところであります。

四月六日の始業式は、二年生から六年生の児童が一齐に登校しました。児童は、元気な挨拶とともに校門を抜け始業式会場である校庭に進むと、そこではすっと静かになり、凜とした立ち姿で式の開始を待っていました。この切り替えの良さと場をわき



副校長 杉浦 紀彦

大井第一小学校に着任して

まえた行動は、綿々と受け継がれてきた大一らしさを象徴するものだと思います。さらに、その後に行われた入学式では、一年生が立派な態度で式に参列しました。大一の良き伝統がこれからも確実に引き継がれていくものと感じました。

大一は、区が指定するICT活用重点校として、コンピュータを活用した新しい学びの研究を進めています。私が指導主事の時には大一に何度も足を運び、先生たちの意欲的で先進的な授業実践を数多く見てきました。これからは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善とともにICT機器の活用は必須となります。これまで築いた伝統にICTの技術を加えることで大一がさらなる進化を遂げられるよう、全力で職務に努めてまいります。

第14回 同窓生の集い

鹿嶋神社祭礼の日、懐かしい「大井第一小学校」に集まろう!!
会合・集合場所としてもご利用ください。

日時：令和4年10月16日(日)
11時～15時

会場：大井第一小学校
1階 多目的室

※中止の場合は、ホームページにてお知らせいたします。

大井第一小学校におけるICT授業の現状

はじめに

日本の学校では情報通信技術（ICT）を活用したICT授業の強化が急速に進められています。

母校、大井第一小学校はICT活用重点校にも指定され、授業のICT化の強化に積極的に取り組んできました。同窓会では藤森校長先生を始めとする学校関係者から提供された情報、資料をもとに、現状についてインタビュー形式にまとめてみました。

（編集委員 杉本晴重）

児童一人1台のPC配備の背景は？

国は令和元年に教育改革案「GIGAスクール構想」を発表しました。GIGAはGlobal and Innovation Gateway for Allの略称で、「全ての児童・生徒に革新的な扉を」の意味が込められています。この構想では令和5年までに学校における「一人1台のPC配備」が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、その配備が前倒しになり、令和2年度2月に一人1台タブレット端末が配備されました。

準備にご苦労されたことは？

ICT化にあたり、まず大事な何は学ばせるのか目的を明確にすることです。画面を見ているだけでやっている気持ちになってしまったり、何もありません。また、教員によって差が来てはいけません。ICTが得意な先生のクラスだけが活用出来

ているというのでは困ります。学年ではどんな活用をするか、全校ではどんな活用をするか具体的に内容を検討、統一するようにし、教員用の活用ガイドライン」を独自に作成しました。

同時に児童の手元に渡すまでにルール作りも必要でした。専門家の助言を得ながら「大1タブレットのルール」を作成しました。ルールや目的を明確にすることで、次年度以降、異動してきた教員も新入生も足並みを揃え、継続した活用ができます。

教員の研修会も頻繁に開催しました。当初は、タブレットや学習アプリ

の操作方法、教員自身がICTを活用した授業の紹介が行われました。令和3年度4月からは、タブレットを活用した「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業作り、オンライン授業ツールTeams・Class Notebookの操作方法やそれらを活用した授業の紹介とより高度な内容で行われるようになりました。研修会では、ICTを研究する専門家にアドバイスをいただき、最新のICT活用教育の研究を進めてきました。

具体的なICT活用方法は？

一人1台のタブレットは教科書・ノート・筆箱のような物で、学習に必要な道具の一つと考えています。まずは、日常的に毎日使う物としてのPCスキル、活用方法を身につけさせました。毎日タブレットを開けてスケジュールや連絡ツールなどルールを守ってルーティンワークとして活

用を習慣化しています。

そして、教科書の知識・理解・技術の向上への利用として、本区で導入しているインターネットを利用した学習ツール「eラーニング」を使用しています。「eラーニング」はすべての学年で出来るようにソフトが入っています。ドリル形式で反復学習が系統的かつ個々の習得状況に応じて学べるようになっていきます。個々の学習状況を担任が把握する事ができ、宿題や自主学習といった家庭学習にも活用しています。

より効果的なICT活用の狙いは？

本校ではICT活用重点校としてタブレットの活用について力をいれています。その中でも最も力を入れてるのが、タブレットを使った「思考力の育成」です。

この「思考力の育成」については令和2年度から研究テーマとして取り組んできました。子ども達は社会にでたら、正解のない答えを見つけていかななくてはなりません。子ども達に必ずや身につけさせたい能力だと考えています。また、本校の児童は家庭に恵まれていて児童が多く、低学年の頃から中学受験を視野に入れた勉強や体験、刺激を受けたりする事も多く知識も豊富です。高学年になると知識をなぞるだけの授業では飽きてしまう一方、興味のある事象についての意欲や挑戦的チャレンジへの関心が高いです。今までの知識では容易に解き明かす事ができない課題を設定し、思考をめぐらしてとこ

とん追求して行く授業が子ども達に意義のある学習となり、またそれを子ども達が望んでいると感じていました。しかし、今まで、思考力を育てる実践は付箋を使うなど紙ベースを基本としていました。また、子ども達にまかせ、意見をひきだだせるといった活動はある程度時間がかかる事がハードルとなっていました。そこに、導入されたタブレット活用によって、大幅に改善される事となりました。

本区のタブレットに導入されている学習端末アプリ「ロイロノート・スクール」は、各自が作った意見カードをPC上集約でき、「自分の考え方を作り出す」ことを助けるシンキング（思考）ツール上で自由に移動させることでアイデアの発散と集約を可視化しながら自分たちの考えを作り出すことが出来ます。その利点は時間の短縮であり、次の時間に続きが出来るように保存しておくことが出来る点です。また、各自がアイデアを考えてくるといような個人作業は家庭で行い、クラウド上に提出させることが出来るので、その分授業での話し合いの時間がさらに確保できます。また、なによりも今まで友達の前で自分の意見が言えなかった児童もPC上で自分の意見を出せるようになりました。

子ども達は予想以上にタブレットの扱い方になれており、シンキングツールを利用した思考スキルによる授業実践が容易になりました。

本校のこのようなタブレットを活用した「思考力の育成」探究的な話し合いを通して」の研究は2021年第37回東書教育賞小学校部門で「優秀賞」を受賞しました。(注)

注、東書教育賞

教育現場の優れた教育実践論文を表彰する賞で、2021年の課題は「未来を担う子どもと共に歩む確かな教育実践」でした。

ICT活用重点校として今後は？

東京都教育委員会から示されている「一人1台端末時代における教育のデジタル化ロードマップ」によると本校は第二期「端末の活用拡大」から、第三期「端末の日常化」に向い「タブレットに蓄積された学習記録を活用した指導」に取り組んでいます。授業でのタブレット活用が日常化し、日々の学習記録がタブレットに蓄積されています。それらの学習記録の蓄積方法を工夫する事で、児童が過去の学習記録から今取り組んでいる課題のヒントに気付くことができたり、見返す事で自分の成長に気がつき、「主体的・対話的で深い学び」を促進すると考えられます。

しかし、この「学習記録の蓄積・活用」の研究実践例はまだ少なく、具体的な方法が明らかになっていないので、本校での研究テーマに位置づけ児童の成長を促進し、発信することを目指しています。

活用の現場を紹介して下さい

タブレットを使用した授業は1年〜6年、体育・音楽・図工・家庭科の

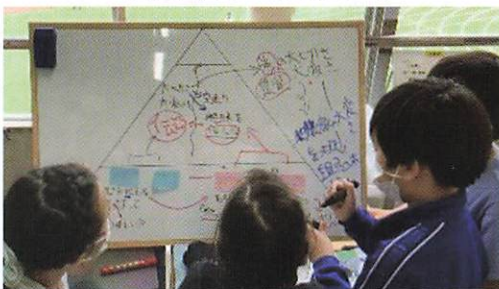
専科でも使用しています。実践事例として、5年生の「米づくりのさかんな地域」に関する授業風景を紹介いたします。

お米でできたプラスチックを作るという解決策はどうか？



PC画面を見ながらコメの消費量、生産量の減少など稲作に関する課題と、問題解決を議論、提案する。

米の大切さと農家の大変さをつたえたい。



ホワイトボードを活用してグループでよりよい解決案を考える。

本稿をまとめるにあたり、学校地域コーディネーター長沼さおり氏にご協力を頂きました。有難うございました。

令和4年度の教職員の異動

I 退職 教諭 木村ひとみ

II 転出

- 副校長 倉次 里絵 (品川区立台場小学校へ)
- 主任教諭 笹本 聡子 (大田区立馬込第二小学校へ)
- 主任教諭 岸田 淳生 (足立区立辰沼小学校へ)
- 主任教諭 村上 剛 (港区立高輪台小学校へ)
- 主任教諭 中村 香織 (北区西ヶ原小学校へ)
- 主任教諭 岡崎真由美 (渋谷区加計塚小学校へ)
- すまいるスクール小島 誠治 (品川区立三木小学校へ)

令和3年度の児童の活躍

- 明るい選挙ポスターコンクール
品川区選挙管理委員会 特選
- 6年梅組 影山実南
 - 6年竹組 成瀬誉文
 - 6年竹組 安原大晴
 - 6年竹組 大生彩莉
- 委員長賞 6年竹組 大生彩莉
税に関する絵はがきコンクール
一般社団法人品川法人会
女性部会長賞 6年月組 青木寛奈
税の標語コンクール品川間税会
入選佳作 6年月組 三浦那月
防災ポスターコンクール
品川防災まちづくり部
銀賞 2年松組 藤川大睦

物故者

情報をいただいた方を順次掲載してまいります。謹んでお悔やみを申し上げます。

卒業年組 氏名 逝去年月日

S 37	S 35	S 35	S 35	S 35	S 32	S 32	S 28	S 27	S 27	S 25	S 23	S 22	S 20	S 19	S 19	S 16	S 15	S 15	S 15	S 15	S 14	S 14	S 13	S 12	S 11	S 7	元教員	元教員	卒業年組	
竹	梅	竹	竹	竹	月	梅	竹	梅	松	梅	梅	男	男	月	松	竹	雪	梅	松	松	梅	松	月	月	梅	雪	雪	元教員	元教員	卒業年組
内貴	安養寺	渡邊	東山	岩楯	中島	木幡	小森	松田	大塚	白井	加藤	斎田	河井	本間	金子	相原	津村	山口	寺居	山崎	春山	仁木	山崎	村川	花田	井野	栢木	氏名	逝去年月日	
徹	明彦	和子	周子	陽子	袿光	宏道	道枝	史朗	直江	都子	与志子	竜介	敏弘	和子	駿	紀元	和子	房子	敏彦	妙子	安夫	勇夫	浩子	都美子	京子	三郎	昭典	氏名	逝去年月日	
H 30	R 3	R 3	R 3	R 3	R 4	R 3	不詳	R 3	R 元	R 2	R 3	R 2	R 2	H 30	R 4	H 28	R 2	R 3	R 2	H 27	R 3	R 2	H 29	R 3	H 30	R 3	R 2	R 2	氏名	逝去年月日
	2	2	11	7	1	5		1	12	5	7	2	4	10	2	5	11	12	12	11	9	10	11	7	8	6	8	25		

同窓生紹介

真実を伝える

ジャーナリストという仕事

昭和57年竹組卒 新田義貴



いまこの原稿をウクライナの首都キーウのホテルで書いています。ロシア軍による軍事侵攻を受け、私は3月上旬にウクライナに入国し取材を続けています。キーウ近郊の町ではロシア軍による虐殺、レイプ、拷問、誘拐、1ヶ月ほどの占領下に彼らが住民に対して行った数々の蛮行が明らかになりつつあります。規模が大きすぎて全体像を明らかにするのは極めて困難ですが、地元警察による調査とは別に我々ジャーナリストも人々の声を拾い集め、いったい何が起きたのか少しでも真実に迫ろうと努めています。

みなさまこんにちは。大井第一小学校1982年卒業の新田義貴と申します。私はジャーナリスト、ドキュメンタリー映画監督として主に報道の世界で仕事をしています。ユーラ

シアビジョンという自分の制作会社を運営し、テレビや映画、インターネットなどの媒体に映像作品を発表することで生計を立てています。私がある程度職業に就くに至ったのか、この場を借りて同窓生の皆様にお伝えしたいと思います。

私の実家は第一小学校のプールの目の前にありました。正門までぐるっと回って歩いて5分もあれば着くのですが、いつもぎりぎりに家を出る小学生の私は人目につかぬようプールの裏のフェンスを越え、大きな桐の木を横目に見ながら校庭を横切る自分だけのショートカットを開拓し通学していました。自分しか知らない通学路という妙な達成感に浸っていたことを思い出します。(※先生方申し訳ありません。昔の話として大目に見て頂ければ幸いです)。一方で私は、学校に行くのに教科書の入ったランドセルを忘れて親に届けてもらうような実こそそっかしい子供でした。そんな自分にとって大井第一小学校はとても居心地のよい場所でした。日々の授業や運動会、遠足、林間学校にとじょうすくい。先生方や多くの友達に恵まれ、のびのびと学校生活を楽しんでいました。この仕事を始めてからいじめ自殺事件や体罰死事件などを取材する機会があり、教育現場の閉塞感を感じることもありました。当時の第一小学校での日々を思い出すと、のびやかな記憶しかありません。昭和の古きよ

き時代の名残だったのでしょうか。当時の僕に将来ジャーナリストになるような片鱗は特になかったように思うのですが、ひとつだけ思い当たる記憶があります。第一小学校の修学旅行で日光東照宮を訪ね、その感想文を書いたことがあります。私は「招き猫を見て我が家の死んだ飼い猫を思い出した」などと綴り先生に大変ほめられ入選しました。今だから正直に白状しますと我が家が猫を飼ったことはありません。なぜこんなことを書いたのか全く記憶がないのですが、自分の見たことを自分なりに表現したいという思いは当時からひとつ倍強かったように思います。もしかしたら空想するうちに本当に猫を飼っていたような錯覚に陥っていたのかも知れません。とはいえこれは虚偽情報ですのでジャーナリストという職業においては決して許されません。人生でウソを書いたのはこの時だけだということとは強調しておきたいと思えます。

もうひとつ、私がこの仕事に就くのに大きな影響を与えた場所があります。大井第一小学校の池上通りを挟んで向かい側に建つ大井バプテスト教会です。僕の家族は毎週日曜日にこの教会に通う熱心なクリスチャンでした。私も生まれてすぐ赤ちゃんの頃から親に連れられて通い、教会は私にとっては学校とは別のもうひとつのコミュニティでした。まだ字も読めない頃から礼拝に出席し、

牧師の難しい説教が理解できない私は、聖書のいちばん後ろのページに掲載されていた地図を見ては落書きしていました。地図に描かれていたのはイスラエル、パレスチナやイラク、トルコなど聖書の舞台となった中東です。このことは私が中東世界に大きな興味を抱ききっかけとなり、後に仕事でこの地域を駆け巡ることにつながりました。また、私にとって聖書で学んだキリスト教の信仰はジャーナリストとして仕事をすすめる際の最も大きな価値基準となっています。「あなたの隣人を愛しなさい。」このシンプルなメッセージが自分の仕事の原点となっていると感じます。後に911同時多発テロが起きイスラム原理主義などを取材することになります。この時も兄弟宗教とも言われるキリスト教を信仰してきたことはイスラム世界を理解する上で大きな力となりました。

やがて私は中学受験を経て駒場東邦という中高一貫の男子校に進みました。ここでの6年間は子供時代に培った感性を思春期の葛藤の中で人格として形成していく過程だったように感じます。小学生時代のような楽しい思い出ばかりではありませんが、将来の仕事につながる多くの体験を重ねました。やがて慶応義塾大学経済学部に進学しました。大学ではラクロス部に所属し、この日本では新しく紹介されたスポーツを仲間たちとともに普及させるために活動し

たつと
会寄りと
出年お
で話す
モー語を
ティ日本
東2000年



ました。当時マイナー競技だったラクロスは選手人口も少なく、「Lacrosse makes friends」を合い言葉に大学を越えて交友が広がり、当時の仲間たちは今も僕のジャーナリスト活動を応援してくれています。高校時代からジャーナリストという職業に憧れを感じていた私は、大学卒業後の1992年にNHKに就職しました。新聞ではなくテレビを選んだのは、私が映画ファンで、文字だけではなく映像を使って表現したいという思いが強かったためです。NHKには17年間在職し、東京報道局、福岡局報道番組部、東京報道局、沖縄局制作部という順に経験を積んでいきました。私はディレクター職として報道系のドキュメンタリー番組を制作する仕事に就いていました。20代の頃は赴任した福岡局勤務時代の思い出は特に強く印象に残っています。ここで沖縄の米兵少女暴行事件、三池炭鉱閉山、水俣病政治決着など戦後日本の歪みがまさに噴出している現場取材したことで、日本という国の抱える問題の本質が垣間見る貴重な経験をすることができました。

また、東京報道局に勤務していた2001年9月に起きた米国同時多発テロ事件は国際報道に大きな関心を抱いていた私にとって衝撃的な出来事でした。事件後すぐにパキスタンのペシャワールに飛びアメリカ軍が攻撃したアフガニスタンから逃れてきた人々が暮らす難民キャンプを取材しNHKスペシャルという番組を作りました。その後もアフガニスタンやイラン、コソボ、シエラレオネ、東ティモール、北朝鮮など世界各地を取材し番組を作る日々が続きました。

2006年、そんな私に転機が訪れます。制作デスクとして沖縄放送局に赴任してほしいという人事異動でした。デスクとはディレクターとプロデューサーの間に立って仕事を

するいわば中間管理職で組織にとっては要です。野球のチームでいえば、選手がディレクター、監督がプロデューサーだとすると、デスクはコーチ役に当たります。若いディレクターたちの面倒を見ながら、上司であるプロデューサーのサポートするのが主な仕事です。基本的に局内の勤務で取材の現場に行くことはありません。僕は現場志向が誰よりも強くずっと取材の現場にいたいと考えていましたが、組織においてはそうはいきません。また一方でデスクやプロデューサーを経験することは出世の道でもあるのです。悩んだあげく、僕はとりあえず辞令を受けて沖

縄に転勤することに決めました。「もしかししたら自分にはデスクという仕事も合っているかもしれない。とにかくまずはやってみよう。」と考えました。やってみてどうしてもダメならそれはその時に考えようと開き直りました。こうした決断をした最大の理由が、赴任先が沖縄だったということです。僕は学生時代から日本の中の異郷である沖縄に強い関心を持ち、NHKに入ってから米軍基地問題や沖縄戦など現地での取材を重ねてきました。その沖縄に暮らすことができる。「デスクという仕事は自分に合っているかわからないが、沖縄に住めるのだからここはあまり深く悩まずにとにかく行ってみよう。」そう考えたわけです。

実際異動してみると、沖縄での生活は楽しかったのですが、やはり後輩たちが毎朝元気に取材やロケに出かけていくのを指をくわえて眺め、帰ってきた彼らと編集室で打ち合わせの日々。やはり現場への思いは断ち切りがたく、私は3年間の沖縄局制作デスクとしての任期を満了したのち、NHKから独立しフリーランスとしてひとりで仕事をしていく道を選びました。大組織に17年籍を置いた後にたつたひとりで未知の世界に飛び出すのは身震いがするような怖い思いでしたが、思い切った決断に応援してくれる同僚たちも少なくありませんでした。2009年、私は17年間お世話になったNHKを正

式に退職しひとりで仕事をしていくことになりました。その後の私の仕事の原点は、全てNHK時代に上司や先輩たちによって鍛えられたものであることはいまでもありません。独立から13年、私はいまのびのびと世界を駆け巡り取材を続けています。いま取材しているウクライナ情勢は東部トンプラスでの大規模戦闘という新たな局面を迎えています。この戦争の全体像を捉えるにはここ東部でも取材をしなければならぬと考え、いったん帰国し準備を進めています。



ウクライナ・キーウ近郊
ブチャにて
2022年4月

私がこのジャーナリストという仕事を続けていられるのは、特に私に特別な才能があるからではありません。ただひとつ言えることは、私は愚直にこの仕事を愛し、この仕事の意義を信じ、あきらめずに続けてきたということです。人にはそれぞれ人生において使命があると思いますが、皆様同窓生や大井第一小学校の後輩たちがそれぞれが情熱を傾けられる仕事を見つけ、その仕事に邁進していただけることを心から願っています。

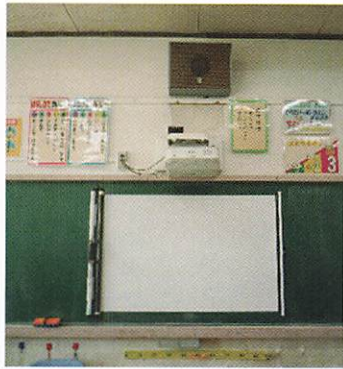
写真で見る

大井第一小学校の現状Ⅱ

平成から令和にかけて校舎内外も順次改装を重ねてきました。今回は、同窓生の皆様に今どきの学校の設備の一部を本誌1ページの写真に続きご紹介いたします。



正門は登下校時以外は防犯上閉めてあります。来校者は右側のインターフォンを鳴らして小さい門を開けてもらいます。



IT教育に必須のプロジェクターとスクリーンは各教室に設置されている



手すりのついたトイレ

令和の学校は、子ども達に良い環境で学べるように様々な設備を整えています。戦後から高度成長期時代の児童が使っていた物はほぼ新しいものに変わっています。増築を重ねたコの字型の木造校舎は、現在は、L字型の鉄筋3階建て校舎に。各教室

にあった、だるまストーブやテレビも今は、エアコンやヒーター、パソコンやプロジェクターに変わりました。開放的だった学校でしたが、大阪の池田小学校事件を機に、防犯対策として、同窓会が区より先行して防犯カメラを取り付けました。その後、来校時に身分証明が必要となり、インターフォンの設置となるわけです。更には、約2年半前からの新型コロナウイルス感染症の流行拡大で、学校への出入りが厳しくなった上、マスク着用手指のアルコール消毒が必須という状況、学校行事の一部中止等、昨年度は学校活動を制限せざるを得なかったようです。

しかし、子ども達は、このコロナ禍でも、たくましく育っています。そのような子ども達を同窓会では陰ながら応援し続けたいと思っております。

同窓会会員通信欄

昭和15年月組卒 代田 益穂

○ワクチン接種も済ませ、来年のクラス会を期待しています。

昭和15年雪組卒 三井 文枝

○80年前、通学した大井第一小学校、

今もなつかしく思い出しております。楽しい小学校（良き師、友人に囲まれて）でした。

昭和20年卒 柏美智子

○懐かしい小学校の校門に伺って心が安まりました。

昭和26年松組卒 櫻井 忠敬

○コロナ禍中であっても有為な活動を続けて下さる幹事の皆さま有難うございます。

昭和32年月組卒 新井 清子

○コロナ禍の中ですが、皆さまお元気でしょうか？同期会で楽しく過ごせる日の来ることを心待ちにしています。今年が喜寿ですね。

昭和35年梅組卒 岩沢 裕子

○同窓会会報ありがとうございます。楽しみに拝読しています。

昭和42年竹組卒 村田 新輔

○公立小学校としては貴重な同窓会運営(会報発行など)に感謝。幹事の皆さま、ありがとうございます。

昭和46年雪組卒 石田 祥子

○いつもお世話になります。みなさまのご健康を祈りながら、会費を納めさせていただきます。

昭和51年月組卒 納谷 陽子

○歴代校長先生の紹介、懐かしく拝見しました。17代赤池先生、18代海老根先生、19代武井先生の時代に在学しました。150周年も待ち遠しいです。

教職員 齊藤 治

○充実した会報ありがとうございます。

医療法人財団 太光会
内科・循環器内科・ペインクリニック
柿島 医院
【診療時間】 月曜日 8:00~14:00
火曜日・木曜日・金曜日 9:00~12:30 15:00~19:00
土曜日 9:00~12:30
【休診日】 水曜日・日曜日・祝日
大井3-21-10 ☎3775-5171

医療法人社団公孫堂
内科・循環器内科・糖尿病内科 **安澤 医院**
〒140-0014 東京都品川区大井 5-14-4
TEL. 03-3772-5757 FAX. 03-3772-5655

同窓生割引有
70th Anniversary
70周年記念 最終キャンペーン実施中
大井第一小学校前 小出不動産
相続問題から土地の有効利用など 不動産の事ならお任せください！
☎0120-513-117
140-0014 東京都品川区大井5-10-9



同期会・クラス会報告

古希祝いクラス会

昭和37年梅組卒 藤波和男

村田和子

日時 令和3年11月25日 (木)
場所 ホテル雅叙園東京 旬遊紀

初冬の抜けるような青空の佳き日に、担任の守田瑠璃子先生が、私達の古希のお祝い会を開いてくださいました。当初一月の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のために延期になって居りました。早く会をしたいという先生の思いを伺っており、感染者数が減少したので、コロナウイルス感染症対策をして、開催する事が出来ました。

小学校卒業アルバムを見ながら、昔話に花が咲きました。マスクをしての校歌斉唱の際は、良く響く守田先生の美声に一同聞きほれました。また50年以上前に赴任した小学校の校歌を、正確に覚えておられる記憶力に感嘆致しました。

小学校卒業時の担任の先生に、還暦に続き古希のお祝いまでもして頂いて、私達は本当に幸せ者であると胸を熱くして家路につきました。これも九十五歳になられる先生がお元気でいてくださるからこそです。守田先生これからお元気で私達教え子を見守ってください。

同窓会会報に広告を掲載しませんか

同窓生の皆様のご協力をいただき、広告を掲載しております。

・サイズ縦3cm×横9cm ・掲載費1枠10,000円
デザインは既存の物・オリジナル作成の物どちらもOK
申し込み先 井上のPCアドレスへ



「遍路で迎えるもう一つの伊豆」

(株)文芸社 2020年1月15日発行
ISBN (978-4-286-21276-0)
Amazonkindle 又は Rakutenkobo
で電子書籍購入可 ¥396 (税込)
著者昭和41年松組卒業生新井俊夫



クラス会・同期会支援

クラス会・同期会を開催され、左記の事項にご協力をいただいた場合は、同窓会より補助金を差し上げます。

当補助金制度の仕組み

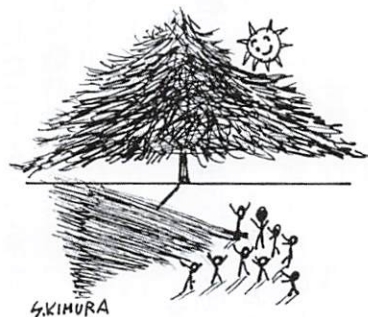
- ①クラス会・同期会報告投稿
- ・開催報告記事(400字以内)
- ・出席者の集合写真(数名以上)
- ・クラス又は同期の最新名簿
- ・幹事の卒業年・氏名・住所
- ②幹事へ補助金5千円送付
- ③投稿の到着後現金書留にて送金回数と期限
- ④1クラス会又は1同期会につき1回/年

2022年4月~2023年3月

20日まで投稿受付

④送付先 大野正恒宛

*尚、投稿していただいた記事と写真は同窓会会報又はホーム・ページに掲載いたします事をご了承下さい。



地元 に 奉仕 する 店

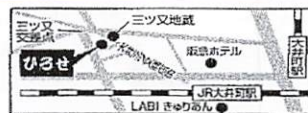
Acc 21 (有) アクツ電気

本店 品川区大井3-5-7 (三ツ又本通り) ☎ 3773-1062
リフォーム・各メーカーの修理承ります

割烹 とんかつ

ひろせ

個室を多数ご用意して
多様な会合、ご宴会に対応しております。 お弁当、お届けしております
品川区大井4-1-2 TEL 3771-7466 FAX 3778-7693



企画・デザインから製本までの一貫したシステムで
皆様のお手伝いをいたします。

京浜印刷株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井4丁目7番3号
Tel:03-3763-7321(代表) Fax:03-3764-6839 E-mail:keihin@sirius.ocn.ne.jp



霊安室完備
事前相談承ります

品川合同葬祭株式会社

代表取締役 猪飼 英介

☎ 0120-478-594

東京都品川区東大井5-25-19

24時間365日対応
お電話ください

第16回総会報告

日時 2022年5月28日(土) 14時
ZOOM並行開催 出席者 17名

一、会長挨拶 大野正恒
二、来賓挨拶 藤森克彦校長
加藤高嗣副校長
杉浦紀彦副校長

三、議 事

①事業報告・収支決算報告及び
監査報告の承認
②事業計画及び収支予算の承認

以上の議事について承認されました。
詳細報告はホームページをご覧ください。

2021年度収支決算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日現在 単位:円)			
項 目	金 額	項 目	金 額
(収入の部)		通信運搬費(事)	390,540
会費収入	1,027,645	クラス会補助金(事)	5,000
入会金収入	39,900	事業費雑費	20,000
寄付金収入	80,000	事業費計	995,496
雑収入	5,015	[管理費]	
①当期収入計	1,152,560	会議費(管)	0
(A)前期繰越収支額	2,561,307	通信運搬費(管)	0
②収入計	3,713,867	事務用品代(管)	21,234
(支出の部)		管理費雑費	3,115
[事業費]		管理費計	24,349
同窓生の集い費(事)	0	③当期支出計	1,019,845
会報出版費(事)	572,172	(B)当期収支額(①-③)	132,715
広報費(事)	7,784	[当期特別支出]	
名簿管理費(事)	0	次期繰越収支差額	2,694,022
会議費(事)	2,000	(A)+(B)	

第17回総会のお知らせ

日時 2023年5月27日(土) 14時
場所 大井第一小学校

*通常総会を毎年5月の第4土曜日に開催することになりましたが、都合により変更になる可能性もありますので、ホームページにてご確認の上、ご出席願います。

★会費納入のお願い★

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸経費がかかります。令和3年度の会費納入者は五二九名で約六、二〇〇名に会費第24号を送ることができました。これからの安定した同窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解と賛同を心よりお願い申し上げます。寄付も承っております。

一口 1,000円
同封の振込用紙をご利用頂き、左の口座に9月末までにお振り込み下さい。
00東京0017010112254
大井第一小学校同窓会

★ゆうちょ銀行口座からATMでの振込をお奨めします。

★寄稿のお礼と投稿のお願い★

皆様のご協力で、会報第24号を発行することができました。寄稿して下さいました皆様、有難うございました。紙面の都合上割愛した箇所が

ありましたことをご了承願います。思い出等随時投稿をお待ちしています。3月20日までに事務局宛に郵便又はメールでお送りください。

★名簿の資料提供にご協力を★

名簿委員会では、会報をお送りするために、「個人情報保護法」に則り、同窓会員の皆様の自宅住所、電話番号の個人データを厳重に管理し、保持しています。

転勤、転居、結婚等により変更となる場合には、事務局までお知らせ下さい。(ホームページからも可)
住所不明者の消息につきましては、今後も更なる皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

今号は、3年後の開校一五〇周年に先立ち、変わりつつある母校を写真で皆様にご紹介いたしました。皆様の思い出がよみがえりましたでしょうか？

編集委員

昭和14年卒	津田 照通
昭和30年卒	木村 親光(イラスト)
昭和34年卒	森 秀雄
昭和35年卒	平林 幹夫
昭和35年卒	杉本 晴重
昭和35年卒	住友 光男
昭和39年卒	榊原 恵
昭和42年卒	井上 幸子



同窓会の運営にご協力を!!

3年後には開校150周年も控えておりますので、更に活発な活動を続けて行く上で、運営に参加して頂ける方を随時募集しております。

同窓会事務局

同窓会ホームページをご覧ください。

URL <http://oildoso.net>

大野 正恒 (名簿担当)

TEL・FAX 03-3772-5527

E-mail wpjny726@yahoo.co.jp

住友 光男

TEL 090-5750-2602

E-mail m.sumitomo@poplar.ocn.ne.jp

平林 幹夫

TEL 090-3502-0459

E-mail mikihira@e2.gmob.jp

井上 幸子 (会報担当)

TEL・FAX 03-3775-6596

E-mail yama_sachiko_i_0209@festa.ocn.ne.jp

品川区立大井第一小学校

〒140-0014 東京都品川区大井6-1-32

TEL 03-3771-5240



同窓会 HP QRコード